

基本目標Ⅰ 今を生きる自分に合ったつながりをつくる【56ページ】

1. 基本目標Ⅰの概要

このカテゴリーでは、主に、市民個人に向けて、地域への意識・関心が高まるための情報発信や参加機会の創出、また、「やりたいこと」と地域ニーズをマッチングする連絡促進等に取り組んでいます。

2. 基本目標Ⅰの取組実績

(1) 基本施策1 地域への意識・関心が高まる

- ・取組施策1 地域活動に関する情報発信
- ・取組施策2 コミュニケーションが生まれるきっかけづくり

① 取組の評価(2024年度)

取組数	自己評価
11	○:10 △:1(※)

※空き家マッチング事業の終了によるものです。

自己評価の表記

- : 予定通り
- △: 未実施
- : 進捗遅れ

② 前半期の主な取組と成果

・地域活動サポートオフィスが実施した、助成金の説明会や地域活動に関する講座等を対面だけではなく、オンラインでも実施することで、多様な参加方法を提供しました。また、町内会・自治会の回覧情報をデジタルツールで閲覧可能にすることで、より広く早く地域へ情報発信ができるようになりました。これらの結果、地域活動への関心が高まりました。

・各地区協議会による居場所づくりの取組やイベントの実施、つるかわ図書地域コミュニティ「つるぼん」の開設などにより、新たなコミュニティの場を創出しました。身近な場所にコミュニケーションが生まれるきっかけができたことで、地域における人とのつながりに満足する市民が増加しました。

<指標の現状値確認>

指標	計画初期値 (2021年度)	今回調査 (2025年度)	目標値 (2031年度)
地域活動への関心度	63.9%	64.2%	75%
地域における人とのつながりが生んだ満足感	48.2%	58.2%	60%

(2)基本施策2 「やりたいこと」と地域ニーズをマッチングする

- ・取組施策1 「やりたいこと」と地域ニーズのマッチング
- ・取組施策2 地域活動の継続と新たな活動の創出に向けた支援

① 取組の評価(2024 年度)

取組数	自己評価
13	○:13 △:0

② 前半期の主な取組と成果

- ・まちカフェ！オープンデーやまちだ防災カレッジ等の実施や、街づくりアドバイザーの派遣、学校ボランティアコーディネーターによる地域連携により、個人や企業、活動団体と地域のニーズをマッチングしました。様々な分野でマッチングが進んだ結果、当初の計画を上回るペースでマッチングが進んでいます。
- ・町内会・自治会や NPO 法人、ボランティア活動団体に対して財政面の支援を行い、団体の活動を活性化することができました。団体の活動が活性化したことにより、新たに地域活動に参加する市民が増加しました。

<指標の現状値確認>

指 標	計画初期値 (2021 年度)	今回調査 (2025 年度)	目標値 (2031 年度)
地域活動に参加したことがある市民の割合	25.8%	26.2%	40%
マッチング件数(累計)	10 件	100 件	140 件

3. 基本目標 I の課題

現役世代や若者の積極的な参加を促すためには、参加しやすい曜日や時間の設定のほか、活動内容の積極的な PR、多様な参加形態の設定等を推進していく必要があります。また、福祉や防災、防犯、子ども、生涯学習など様々な分野で未参加層へのアプローチの強化が必要です。

なお、「町田市における地域コミュニティの未来に関する共同研究」の最終報告書では、各分野のコーディネーターの連携の重要性が示されているため、サポートオフィスによるアウトリーチ活動を強化していく必要があります。

基本目標Ⅱ つながり地域で地域の活力を生み出す【65ページ】

1. 基本目標Ⅱの概要

このカテゴリでは、主に、地域で活動する団体に向けて、「寄り合い-The YORIAI-」の開催や地区協議会の活動支援等を通じて、連携の促進や共創の促進に取り組んでいます。

2. 基本目標Ⅱの取組実績

(1) 基本施策1 多様な主体のつながりが活性化する

- ・取組施策1 持続可能なプラットフォームの構築
- ・取組施策2 多様な主体がつながるネットワークの充実

① 取組の評価(2024年度)

取組数	自己評価
4	○:4 △:0

自己評価の表記
 ○:予定通り
 △:未実施
 :進捗遅れ

② 前半期の主な取組と成果

- ・「寄り合い -The YORIAI-」の開催により新たな地域課題解決の事業や参加者間での新たなつながりが生まれました。また、生まれた取組については、打合せ場所の提供や市HP等で情報発信の支援を行いました。これらの結果、地域課題の解決の場に参加するハードルが下がり、地域における課題解決プロジェクトに主体的に参加する市民が、当初の想定を上回りました。
- ・地域コミュニティ研究の一環で 2025 年度に行った地区別経過報告会に参加した方へのアンケートでは、参加者の約9割の方が、地域に関する対話の場は増えていると回答しています。

<指標の現状値確認>

指標	計画初期値 (2021年度)	今回調査 (2025年度)	目標値 (2031年度)
課題解決に向けた話し合いの場の参加しやすさ	8.2%	12.2%	20%
地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い-The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの参加人数	1,716 人/年	4,424人/年	2,200 人/年

(2)基本施策2 地域でイノベーションを起こす

- ・取組施策1 新たなプラットフォームから生まれた取組の推進
- ・取組施策2 地域課題の解決や魅力向上に向けた取組の推進

① 取組の評価(2024 年度)

取組数	自己評価
4	○:4 △:0

② 前半期の主な取組と成果

- ・「地区別懇談会」、「地区ミーティング」で生まれた事業を地区協議会が支援することで、「わたしの地区の未来ビジョン」実現を推進しました。
- ・地区協議会の活動支援や「寄り合い-The YORIAI-」等に取り組みました。「地域に活気があると感じる市民の割合」は横ばいでしたが、地区協議会の活動に主体的に参加する人が増え、その結果、福祉、子ども、防災・防犯、地域活性化等の地域課題解決のための取組が目標を上回って生まれました。

<指標の現状値確認>

指 標	計画初期値 (2021 年度)	今回調査 (2025 年度)	目標値 (2031 年度)
地域に活気があると感じる市民の割合	32.0%	30%	45%
地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い -The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの実施件数	10 件/年	82件/年	100 件/年

3. 基本目標Ⅱの課題

各地区で新たなプロジェクトの実現や、実現した取組が継続できるよう、様々な関係機関が連携して、支援を行う必要があります。

<根拠>

- ・多様な主体の連携による地域課題解決のための取組数、地域活動にかかわる関係者数ともに横ばい傾向にあります。
- ・「町田市における地域コミュニティの未来に関する共同研究」で行った市民アンケート調査や地域活動団体アンケート調査の結果によると、プロジェクトを継続するための資金や情報、場所の支援が求められています。

基本目標Ⅲ 必要な人に必要な支援が届く仕組みをつくる【71 ページ】

1. 基本目標Ⅲの概要

このカテゴリーでは、主に、福祉サービスを必要としている方や利用している方に向けて、地域のつながりを通じた潜在的な相談者の把握や、相談しやすい体制づくり、分野横断的な課題への連携、福祉サービスの質の確保等に取り組んでいます。

2. 基本目標Ⅲの取組実績

(1)基本施策1 支援の輪につながる、つなげる

- ・取組施策1 当事者や家族等の気づきと周囲の人の理解促進
- ・取組施策2 地域における見守り・支え合い活動の充実
- ・取組施策3 当事者や家族等が相談しやすい体制づくり

①取組の評価(2024 年度)

取組数	自己評価
56	○:55 △:1(※)

※手話通訳者に関する取組の変更内容によるものです。

自己評価の表記

○:予定通り

△:未実施

:進捗遅れ

②前半期の主な取組と成果

- ・福祉のネットワークと地域のネットワークのつながりが進んでいます。例えば、地域における見守り・支え合い活動として、高齢者が定期的に近所同士で介護予防に取り組むための運動である町トレの実施団体への支援や、ボランティアが地域ぐるみで子どもの見守りを行う活動を支援しました。見守り活動を通じた気づきが相談支援につながるなど、具体的な取組へと展開されました。また、高齢者支援センターや〇ごとサポートセンター、地域活動団体が連携し、買い物支援マップを作成するなど、相談がきっかけとなって、関係主体が協働して地域課題の解決に取り組む動きが見られました。
- ・支援を必要としながらも支援につながっていない方の把握のため、1人暮らし高齢者への戸別訪問や、ひとり親世帯への弁当無料配達時の困りごと相談の取組などにより、潜在的な相談者の把握に努めました。

③ 指標の今回調査確認

指 標	計画初期値 (2021年度)	今回調査 (2025年度)	目標値 (2031年度)
福祉サービスに関する情報を入手しやすいと感じる市民の割合	43.8%	37.6%	50%
困ったときに助けてもらえる人や相談支援機関があると感じる市民の割合	73.0%	78.5%	80%
地域福祉コーディネーターが地域のつながりから相談支援に結び付けた件数	—	167件	350件/年

(2) 基本施策2 支援が必要な人に寄り添い支える

- ・取組施策1 社会とのつながりに向けた支援
- ・取組施策2 生活困窮者等への支援
- ・取組施策3 住宅確保要配慮者 への支援
- ・取組施策4 自殺対策の推進
- ・取組施策5 暴力・虐待の防止
- ・取組施策6 権利擁護の推進(成年後見制度利用促進基本計画)
- ・取組施策7 再犯防止に向けた取組の推進(再犯防止推進計画)
- ・取組施策8 災害時に備えた支援体制の構築
- ・取組施策9 ユニバーサルデザイン のまちづくりの推進

① 取組の評価(2024年度)

取組数	自己評価
43	○:43 △:0

② 前半期の主な取組と成果

- ・虐待、8050問題、ひきこもり、精神障がい、生活困窮、住まい、自殺対策、権利擁護等、分野横断的な課題の支援においては、関係機関が参加する事例検討会議や意見交換等実施し、連携して支援を行いました。
- ・災害時に自力での避難が困難な「避難行動要支援者」を対象とした個別避難計画について、福祉の各分野と連携して策定を進めたほか、福祉専門職や町内会自治会等に周知を行いました。

③ 指標の今回調査確認

指 標	計画初期値 (2021年度)	今回調査 (2025年度)	目標値 (2031年度)
自分や周りの人が必要とする支援を受けられていると感じる市民の割合	70.7%	71.9%	75%
災害時の地域における協力体制があると感じる市民の割合	77.4%	78.1%	80%

(3)基本施策3 支援の質を確保する

- ・取組施策1 福祉サービスの質の向上
- ・取組施策2 福祉専門人材の育成・確保
- ・取組施策3 地域福祉の包括的支援機能の構築

①取組の評価(2024年度)

取組数	自己評価
25	○:25 △:0

②前半期の主な取組と成果

・福祉サービス事業者への運営支援として、介護分野においては、要介護度が改善された施設への奨励金の交付やその効果検証の実施、保育分野では、保育コンシエルジュによる各施設が抱える課題への助言等を行いました。

・高齢・障がい・子ども分野において、福祉人材の就職につなげるため、就職相談会や、福祉の現場を知るためのバスツアー等を実施したほか、事業所職員のスキルアップを図るため、リーダー育成やコミュニケーション等の研修を実施しました。

③指標の今回調査確認

指 標	計画初期値 (2021年度)	今回調査 (2025年度)	目標値 (2031年度)
福祉サービスの質に対する満足度	82.2%	74.6%	85%
地域貢献活動を実施している福祉サービス事業所の割合	58.3%	53.4%	85%

3. 基本目標Ⅲの課題

(1) 早期把握・早期支援のための関係機関等の連携促進と地域の支え合いの基盤強化

少子高齢化、世帯の単身化、地域のつながりの希薄化により、各窓口では複数分野にまたがる相談が増加しているとともに、望まない孤独・孤立やひきこもりなど、既存の福祉サービスだけでは支援が十分に行き届かないケースが散見されています。

引き続き、高齢・障がい・子ども・生活困窮分野における相談支援やアウトリーチ等を実施して関係機関・支援団体の連携を促進することで、潜在的な困りごとを抱えた方の早期把握・早期支援を進めるとともに、地域における居場所や地域活動への参加機会の創出など、支援の「つなぎ先」の充実を図り、地域における支え合いの基盤を強化していく必要があります。

(2) 相談支援を通じた丁寧な情報発信と福祉サービスの質の向上

今回調査では「福祉サービスに関する情報の入手のしやすさ」、「サービスの質に対する満足度」、「地域貢献活動を実施している福祉サービス事業所の割合」が低下しています。こうした傾向からは、福祉サービスの多様化により情報量が増えて必要な情報を取得しにくくなっていることや、利用者の増加と利用者層の広がりにより、サービス提供事業者の本来業務が増え、地域貢献活動を実施する人材の確保などが難しくなっている状況がうかがえます。

このような状況を踏まえ、引き続き、丁寧な相談支援を通じた情報提供の充実を図る等により利用者支援を行うとともに、福祉人材の確保や実地指導等により福祉サービスの質の維持・向上を図り、事業者への運営支援を行う必要があります。

(3) 災害を見据えた平時からの福祉的支援体制の強化

全国的に豪雨・地震等の災害が多発しています。発災時に避難の支援を要する方の把握や地域における助け合いを促進していくため、平時から、支援を必要とする方の把握や情報の共有、避難行動要支援者に関する取組の推進、関係機関間の連携体制の構築、地域におけるネットワークの形成を進めるなど、災害時を見据えた福祉的支援体制の体制構築の推進が求められています。